


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 15 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 悠

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 18 日 ~ 平成 26 年 5 月 26 日 (9 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では世界遺産に登録されている屋久島において、ヤクシカの食性を採餌行動の直接観察および糞サンプルを回収しその内容物から調査した。さらにサルやタヌキ、イタチの糞も採取することができたことから、これらの糞の内容物についても調査した。 シカの採餌行動を観察した結果、シカは地面に落ちたセンダンの花やアカメガシワ、ホルトノキ、サンゴジュ、ウラジロムクの葉を採食していた。シカは落ちていた葉を丸ごと採食するため、葉を同定するのは難しかった。また海拔 1600m 付近に位置する花之江河ではコケを採食していた。 糞の採取は低地(200m 付近)、中地(700m 付近)、高地(1600m)でそれぞれ行った。流水中で糞を洗い、残渣を乾かして内容物を確認したところ、シカの糞からは繊維や葉のかけらを確認できたが、消化されていたために種の同定は困難であった。サルの糞についても同様であったが、シカとサルの糞を比較すると、サルの糞からは未消化の比較的大きな種子が出現した。タヌキの糞からはトリの羽や骨、カニの甲羅やカタツムリなど多様な動物性の餌が出現した。イタチの糞からはアリやゴキブリが出現した。 同定できた糞の内容物の種類には標高差はなく、また同じ標高の距離が離れた地点間においても差はなかった。これは今年の屋久島の資源が不作であったことが関係していると考えられ、利用できる資源が少なかったために同じような餌を採食していたと考えられる。 屋久島ではサルとシカが共生しており、サルが採餌中に落下した果実や葉をシカが採食する行動が有名である。今回の調査ではそのような行動は観察できなかったことが残念であった。また、標高によって植生が大きく変化する屋久島では資源も標高によって変化するが、今回は資源の不作によりそういった資源の差を観察することができなかったことも残念であった。
I observed feeding behavior of deer and collected fecal samples of mammals to estimate their diets. Deers ate flower of Senndann and some leaves. Yakusima has various elevation. So we compared the diet within the fecal samples of deers. However, there were no difference because of the shortage of fruits in this year.

写真. センダンの花を採食するヤクシカ
6. その他 (特記事項など)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

--